

「鳥取県日南町における計画的な森林施業に向けたフォレスター活動」が優良活動事例として全国林業普及研修大会にて発表されました

平成 28 年 12 月 1 日に東京千代田区の全国町村会館にて開催された、28 年度全国林業普及研修大会で（公財）鳥取県造林公社西部事務所の前野副所長が、優良活動事例発表「鳥取県日南町における計画的な森林施業に向けたフォレスター活動」を行い、当地の取組について報告を行いました。

(1) 現状

- ・日南町は、町内 LVL 工場向けに間伐材の搬出利用が促進され、鳥取県内の素材生産の 40% を占める林業地
- ・豊富な森林資源に対しスギ・ヒノキ林の間伐実施率はまだ 32% で、今後も利用間伐を推進する必要がある
- ・地元林業事業者からは「間伐をしたくても、出来るところが少なくなっている。」との声がある
- ・上記の問題を明らかにするため森林 GIS を用いて施業履歴を図示させる「施業の見える化」を行った
- ・結果、幹線路網の無い地域では施業が進んでおらず、幹線がある地域でも幹線沿いに虫食いの間伐施業がなされていることが明らかとなった
- ・この原因は、地権者の了解が得やすく地形条件の良いところから虫食いの間伐を進めたため
- ・今後、既設の幹線路沿いで地権者の協力が得やすい場所に残りわずかしかなく、あと数年で搬出間伐が行き詰まるという危機的な状態になっている事が明らかになった。

(2) 課題

- ・今後は虫食いの間伐をやめて、集約的な施業を進める必要がある
- ・幹線路網がないため施業の空白地帯となっている地域に、新たな幹線を計画・整備し、計画的に面的な森林施業を進めなければならない
- ・関係者が問題意識を共有し、町・森林組合・素材生産業者等が一致団結した体制を作り、集約化や幹線路網といった課題に取り組む必要がある。



(3) これまでの取組

- ① 森林 GIS による施業の見える化
 - ② 新たな体制でのプランニング（幹線路網対策プロジェクトチーム）
- 幹線未整備地域の計画的な森林整備のため、町・森林組合・県が協力して幹線整備を進めることとし、准フォレスターが傾斜区分図等を用いて新たな幹線のルート計画を提案した。

成果

- ① 情報の共有化（森林組合、町との意見交換）、② 計画的な森林施業の実施体制の整備

まとめ

- ・町と森林組合が協力体制を構築し、特に森林組合は組織改革を行い集落毎の森林整備説明会も開始した。
- 現在の素材生産年間8万 m^3 から町の目標である10万 m^3 へ向けて、新たな一步を踏み出せたと言える。